

## 小さな強力な政府で

～ 楽しいスノースポーツの提供を ～

会長 片 忠夫



公益財団法人神奈川県スキー連盟の「ルーツ」を紐解くと先人の偉大さと、稀に見る貴重な歴史の沿革を探ることが出来て楽しさを覚えます。

数あるスキー年史の中でも神奈川県連半世紀の歴史的区切りである「創立50周年記念誌」は目を見張るものがあります。その編纂委員長は当時の山崎 勉副会長（横浜）であり、理事諸兄は大山重彦氏（横浜）、渡辺智文氏（小田原）、中村 孝氏（川崎）、小川浩史氏（横浜）（故人）等の血のにじむ努力の産物と言えます。

県連の誕生は、初代総裁県知事の大村誠一氏、会長は中原啓三氏（県学務部長）……県との見事な結束基 1939年（昭和14年）2月17日横浜駅前新興倶楽部で孤高の産声をあげました。同年3月5日には第1回神奈川県スキー大会を志賀高原で開催と記されております。その年の9月第2次世界大戦が始まったことは知るところであり、驚きを禁じえません。社会情勢が混沌とする中、食べることすら困難な時代に力を結集し、目的を達成された「意志」と「行動力」に敬意を表さずにはられません。

中国の格言に”先人木を植え、後人その下で憩う”という教えがあります。

今、公益財団法人神奈川県スキー連盟に集うスノースポーツ人は先人の遺産でスノースポーツライフを楽しみ、仲間と触れ合い、豊かな人生の構築を成し得ているものと感謝しながら、スノースポーツの持つ無限の楽しみをみんなで満喫しようではありませんか。本ツールは公益財団法人神奈川県スキー連盟の「ルーツ」を鑑みても“命”であります。それはスノースポーツライフを楽しむ会員、県民が「手引書」として「ガイドンス」「指標」として長年役立て、育てて頂いたものです。歴史が刻み込まれ、選手の魂が注がれ、会員、県民の熱意あふれるものに変貌してまいりました。

熱血溢れる加盟団体、所属団体の事務担当者（登録担当）の方々の仲間意識と誠意を期待しております。選手、指導員、プレーヤーはこのツールでシーズンを構成します。その案内人としての役割を切にお願い申し上げます。

以上